

第二條 明治九年當省甲第五號布達第十三條ニ據リ身代限者ノ負擔タルヘシ

第三條 明治五年第百八十七號公布身代限規則ニ依ル可キモノトス

●岡山縣伺 (十七年五月二十六日)

身代限財產處分ノ義ハ府縣官職制中地方ノ事務郡區長ニ於テ處分シテ後知事縣令ニ報告スルヲ得ルノ項目即チ其第三項ニ依リ既ニ郡長ノ事務ニ屬セラレ、而已ナラス明治五年第百八十七號公布身代限規則中最後ノ項目但書結文ノ趣ニ依リ糶賣代價相當ト見込ムキハ直ニ落札ノ義ヲ達スルハ素ヨリ郡長ノ權内ト心得居申候處本年四月官報第二百二十九號伺指令欄内福島縣伺第二條御指令ノ趣ニ依レハ身代限抵償トシテ差押フヘカラサル品類ハ郡長ニ於テ直ニ査定シ糶賣落札達方ハ裁判所ノ認許ヲ得ルノ手續キ御明示有之當縣從來ノ見解ト異リ候ニ付尙ホ彼是熟考候處抑身代限財產處分ノ義ハ既ニ郡區長ノ事務ニ屬シ況ヤ前陳ノ公布身代限規則中最後ノ項目但書結文等意味スルニ裁判官ノ認許ヲ得サレハ郡長ニ於テ直ニ落札ノ義ヲ達スルノ權ナキモノトノ精神含蓄セリトモ解シカタク且ツ本人ノ望ニ任セ差押フベカラサル品類ハ郡長ニ於テ査定シ落札達方ノ點ハ裁判所ノ認許ヲ得ルハ聊權衡ヲ得サル様被存加之ス糶賣ノ義ハ貸主借主雙方

ヨリ監定人ヲ差出シ他人ト共ニ入札シ總入札ヲ比較シ高札ヲ以テ其價ヲ定ムル規則ノアル以上尙ホ裁判所ノ認許ヲ得ルハ聊相感候條至急何分之御明示相成度此段相伺候也

○工部省指令 (十七年六月十二日)

伺ノ趣府縣官職制ニ身代限財產取扱ノ事トアルハ其財產取扱ヲ爲スヲ示サレタルモノニシテ其處分權ヲ與ヘラレタルニ非ス又身代限規則末段但書ハ入札中ノ高札ヲ以テ其財產即チ物件ノ價ヲ定ム可キト示サレタルモノニシテ該物件公賣ノ處分即落札ヲ直達スヘキ權ヲ與ヘラレタルニ非ス依テ落札ノ儀ハ裁判所ノ認許ヲ得タル上相達ス可キ筋ト可心得事

但福島縣伺ニ對シ郡長ニ於テ抵償トシテ差押フヘカラサル品類ヲ査定スヘキ手續ヲ指示シタル儀ハ無之候事

●和歌山縣伺 (十七年五月二十八日)

身代限財產差押ノ儀ハ該家所有物ニ限り他人ノ財產ニ及ホスヘキモノニ無之處其差押ニ際シ該家中ニ有之財產ノ内他ヨリ借り品若クハ預リ品有之事實相違無之ハ差押ニ及ハサル儀ト存候處官報第二百二十九號伺指令欄内福島縣伺第三條出訴

へ司法省指令ノ趣ニ據レハ證據ノ有無ニ不拘差押フヘキ旨ニ有之右ハ其證據ノ不充分ナル場合ニ於テハ都テ差押確證例ハ借家住居ノ者ニシテ建具付借用ノハサ有之双方貸主異儀無之モノハ差押ニ及ハサル哉將タ確證アルモ尙ホ可差押ルモノトセハ一應郡區長ヨリ裁判所へ照會シ認可ヲ得テ其確證アルモノハ之ヲ除クヘキ儀ニシテ其貸又ハ預ケ人ヨリ其取戻シテ裁判所へ直ニ可申出筋無之儀ト相心得可然哉此段相伺候也

○司法省指令 (十七年六月二十日)

伺之趣公證記名若クハ賣買讓渡規則アル財産ニシテ他人ニ屬スルモノヲ除クノ外總テ差押フヘキモノトス
但差押ヘラレタル物件ノ返還ヲ求ムルニハ其請求者自カラ裁判所ニ申出ヘキ義ト心得ヘシ

●山梨縣伺 (十七年六月二十四日)

寺院ニ於テ其寺院用ノ爲メ金穀ヲ負債シ期限ニ到ルモ返償ナサス竟ニ訴訟ノ末身代限被申付タリ然ルニ寺院身代限財産取調方ハ是迄類例モ無之候得共明治六年第八十八號公布借借身代限規則ヲ適用調査候儀ト心得可然哉

若シ神社ニ於テ前項ノ場合ニ遭遇スルモ其財産ハ何等ノ手續ニ據リ調査スヘキ儀ニ候哉

○司法省指令 (十七年七月九日)

伺之趣社寺身代限ニ付財産取調ノ手續ハ通常ノ規則ニ準ス可ク其抵償トシテ差押フ可カラサル物件ハ左ノ通り心得可シ

- 一 神体佛像及ヒ其附屬品
- 二 社寺付除稅地
- 三 寶物古文書類
- 四 特別ノ契約アル寄附物
- 五 祭祀法用ニ必用ナル建物及ヒ什物

但別段ノ由緒アル地所建物ハ本文ニ準ス

●静岡縣伺 (十七年七月二十六日)

第一條 身代限地所公賣ノ際之ニ成立スル所ノ作物ニシテ其既ニ成熟スルモノハ地所下各別ニ公賣スヘキ儀ニ候哉

第二條 前條若シ未成熟ナルモハ地所ヲ公賣スレハ隨テ作物ハ之ニ附帶スヘキ出訴

儀ニ候哉

○司法省指令 (十七年八月十三日)

伺之趣ハ左ノ通

第一條 別段ノ例規無之ニ付適宜處分スヘキモノトス

第二條 公賣スヘキ時期迄ニ成熟ス可キ作物ニアラサレハ差押フヘキモノニ非ラストス

●福島縣伺 (十七年八月十三日)

第一條 戸長役場ニ於テ人民ヨリ徴收シタル租税金ノ内盜難及村吏私借引負等

ニ係ル分倍償方當時其筋ヘ及起訴置後日犯人處刑該金員納付スヘキ旨宣告相成候モ本人資力無之カ又ハ等閑ニシテ不致上納キハ其筋ヘ對シ身代限ノ處分ヲ請求スヘキハ勿論ニ可有之候得共該處分ノ上賠償金額ニ不足ヲ生スルキハ身代持直次第可致上納旨之證書差出サセ追テ徴收候儀ニ可有之哉

第二條 前條身代限處分之際ト雖モ先取ノ特權ヲ有スル儀ト相心得可然哉

○司法省指令 (十七年八月二十日)

伺之趣左ノ通可心得事

第一條 賠償金ノ不足ハ裁判所ヨリ明治八年第百二號布告證文裏書雛形ニ準シ

身代持直シ次第皆濟ヲ受クヘキ旨ノ書面ヲ渡ス可キニ付追テ其書面ニ依リ還納ヲ受ク可キ儀ト心得ヘシ

第二條 先取ノ特權ナキモノト心得ヘシ

●愛媛縣伺 (十八年二月十九日)

戸主身代限之節ハ土地建物并ニ記名アル公債證書ヲ除キ非戸主ノ所有ニ係ル動産物ハ總テ戸主財産ニ組込糶賣相成例規ニ有之候得共其内非戸主ノ所有タルト明確ナル分取除クヘク儀ニ候哉

前項若シ否ストナストキハ非戸主カ篤行奇特ノ行爲ニ據リ賜リタル金銀木杯等ハ如何處分致可然哉

○司法省指令 (十八年二月十八日)

伺之趣左ノ通心得可シ

但主管ニ付當省ヨリ指令ス

第一項 公債證書地所ノ如キ成法上所有者ノ記名アルモノニ非サレハ取除ク可キ限リニアラス

出訴

第一 兩線ノ官道甲路ハ遠ク乙路ハ近キ時ハ現ニ甲路ヲ經ル

ト雖モ乙路ヲ以テ計算スヘシ

第二 本條ハ日本國管内ヲ通行スル者ノ爲メ設ク

第五條 原告人又ハ被告人直ナル者ノ手當

一日ニ付五拾錢

但シ八里外ヨリ罷出止宿スル者ハ貳拾五錢ヲ増ス

右定限

第二條ニ同シ

第六條 原告人又ハ被告人直ナル者八里以外ノ地ヨリ來リ滯留

中ノ手當

一日ニ付五拾錢

第七條 原告人又ハ被告人直者旅費

滿八里ニ付拾錢歸路モ同斷

但シ八里ヲ越レハ每滿一里ニ付拾錢

九年四月
月司法
省甲第
六號布
達ヲ以
テ第六
條ハ追
テ相違
スルマ
テ執行
ス及ハ
ス

右定限

第四條ニ同シ

第八條 通辯雇料

一日ニ付三圓

右定限

第二條ニ同シ往復旅費ヲモ定額ノ通計算スヘシ

第九條 翻譯料

一枚ニ付十六行十五字詰二圓
但シ一枚以下モ同價

右定限

第一條ニ同シ

第十條 測量繪圖認料

右定限

第一 長三百間ニテ盡ル時ハ

百間ニ付一尺ノ割

西ノ内一枚ニ付拾錢

第二 長六百間迄

訴訟入費

十七年
司法省
甲第一
號告示
一枚以
テ
行二十
字詰一
枚四圓
ト爲ス

百間ニ付五寸ノ割 同 拾貳錢

第三 長千二百間迄 同 拾四錢

百間ニ付三寸ノ割 同 拾四錢

第四 長六千間迄 同 拾七錢

百間ニ付二寸ノ割 同 拾七錢

第五 長一萬二千間迄 同 貳拾錢

百間ニ付一寸ノ割 同 貳拾錢

第六 長一萬二千間以上 同 貳拾錢

百間ニ付五分ノ割 同 廿四錢

一測量ニ及ハサル見取繪圖ハ間數ノ長短ヲ論セス大凡見積ヲ以テ簡便ニ圖引致ス可シ

但西ノ内一枚ニ付拾錢

第十一條 使賃 滿一里毎ニ拾錢一里未滿ハ

五錢

但シ歸路モ同斷

右定限

第一 裁判所ニテ示談中雙方承諾ノ上原告被告雙方又ハ一方ノ者ヨリ遣シタル使賃

第二 裁判所ニテ示談中原告又ハ被告一方ノ者掛リ裁判役ノ檢印ヲ經タル使賃

第三 原告又ハ被告一方ノ者出訴中違約シテ出席セサル時掛リ裁判役ノ檢印ヲ經テ違約ヲ責ムル使賃

第四 原告被告雙方ノ爲メ又ハ一方ノ爲メニ雙方又ハ一方ノ者ノ申立ニ因リ裁判所ヨリ臨時ニ遣シタル使賃

第十二條 郵便并ニ電信料 定價 右定限

第十一條ニ同シ

第十三條 身代限ヲ爲スニ付裁判所又ハ縣廳又柯役場ニ納ム可
キ評價人監定人等ノ日雇賃金ノ諸入費及ヒ身代限諸雜費ハ臨
時計算ヲ以テ定ム

右ハ前數條ノ入費ニ先ツテ取立ツ可シ

●高知縣伺 (十七年二月二十日)

訴訟入費償却規則第四條但書ニ八里ヲ越レハ每滿一里ニ付十錢トアルハ假令ハ
裁判所ヲ距ル九里ノ地ヨリ召換ニ應シタルハ更ニ一里ヨリ起算シ即チ金九十
錢ヲ給スルノ主旨ニ候哉將タ滿八里ノ外ヨリ一里毎ニ金十錢ヲ乘シ九里ハ金貳
拾錢十里ハ金三拾錢ト計算スル儀ニ候哉

○司法省指令 (十七年三月十二日)

伺之趣後段見込之通

○第廿八項 訴訟入費規則外國人へ不施行

丁第一號大審院
諸裁判所へ達

明治十一年一
月七日司法省

明治九年四月甲第五號ヲ以テ訴訟入費償却規則及布達置候處右ハ爾來各國公使へ談
判ノ次第有之ニ付當分外國人民へハ施行難相成候條此旨可相心得候事
但各國之内已ニ該規則之通準行政シ來リ候分ハ此限ニアラス
[此但書十一年司
法省丁第二號達
ヲ以テ
追加ス]

○第廿九項 裁判費訴訟費負擔仕拂方心得

省丁第拾號
諸裁判所へ達

明治十二年三
月十四日司法

裁判費訴訟費ノ義ニ付別紙之通大審院へ相達候條此旨爲心得相達候事

別紙 大審院へ達 (明治十二年十二月十三日)
裁判費訴訟費ノ義過般及答議候處右ハ取消シ別紙之通更ニ相達候事
別紙 (括弧内朱書)

〔第一例〕
初告ニテ 原告(甲)勝 被告(乙)負 (乙)入費ヲ拂フ
控訴ニテ 原告(乙)勝 被告(甲)負 (甲)ハ初告控訴兩件ノ入費ヲ拂フ
(破毀) 原告(甲)負 被告(乙)勝 (甲)ハ總テノ入費ヲ拂フ
セス) 原告(乙)勝 被告(甲)負 (甲)ハ總テノ入費ヲ拂フ
訴訟入費

〔第二例〕

三百九十

初告ニテ (甲)勝或ハ負トモ (乙)負或ハ勝トモ
 控訴ニテ (甲)負 (乙)勝 (甲)ハ初告控訴入費ヲ拂フ
 (破毀) 上告ニテ (甲)勝 (乙)負 (乙)ハ上告入費ヲ拂フ而シテ甲ハ控訴マテノ乙ノ入費
 ナ既ニ償ヒシナラハ取返スヘシ

〔第三例〕此例ハ大審院ニ於テ破毀シタル後第
 二ノ上等裁判所ニ移シタル場合ナリ

此時負者ハ初告ト第一控訴ト第二控訴ト都合三件ノ入費ヲ拂フヘシ上告入費
 ニ至テハ其ノ上告ノ負者之ヲ拂ヒ第二控訴ノ負者ハ之ヲ拂フヘキニ非ス

○第三十項 訴訟入費辨償方言渡心得

明治十二年十一月二
 十一日司法省丁第二

十八號大審院
 諸裁判所ヘ達

訴訟入費云々ノ幾十年丁第四十四號ヲ以テ相達置候處左ノ通改達候條此旨可心得
 事 訴訟入費ハ曲者ヨリ直者ニ辨償スヘキハ當然ノ事ナルニ付裁判言渡ノ節ハ必ス曲
 者ノ辨償ニ歸スヘキ旨言渡スヘシ

○第三十一項 民事詞訟上喚出狀送達及入費取立方

明治

十三年四月十九日司法省丁
 第六號大審院諸裁判所ヘ達

民事詞訟上喚出狀送達ノ義ハ可成丈直ニ本人ヘ送達スヘシ不得止戸長役場
 サル地ハ 区役所 ヲ經由スルルハ其役場迄ノ送達費用ハ其呼出ヲ請フ者ヨリ取立ツヘシ但
 裁判落着ノ上曲者ノ辨償ニ歸スヘキハ勿論ナリトス
 右相達候事

各 府 縣

丙第四號

民事詞訟上喚出狀送達ノ義別紙ノ通大審院諸裁判所ヘ相達候條爲心得此段相達候
 事

〔別紙ハ前項ニ掲ケアル丁第六號ニ付略ス〕

○第三十二項 民事裁判上呼出狀賃錢等官費採替禁止

明治十五年三月二十二日內務省乙第貳拾號府
 縣(沖繩函館札幌札幌根室ノ四縣ヲ除ク)ヘ達

民事裁判所ヨリ人民呼出狀脚夫ノ賃錢及赤貧者被告トナリ喚問旅費ノ儀從前郡區
 役所又ハ戸長役場ニ於テ採替又ハ官費支給候向モ有之候處自今一切不相成候條此
 訴訟入費

三百九十一

旨相達候事

三百九十二

○第三十三項

民事裁判上召喚狀脚夫賃錢等操替停止

明治十五年四月五日司法省丁
第二十一號大審院裁判所へ達

民事裁判上人民召喚狀脚夫賃錢及赤貧者喚問途中旅費支出方ノ義ニ付明治十年本省丁第八拾六號達ニ及置候處嚮ニ内務省ヨリ協議有之今般同省ニ於テ乙第二十號ノ通府縣へ達相成候條此旨爲心得相達候事

内務省
乙第
十號
ハ前
二掲
ノ項

附錄

各裁判所位置及實測里程表

大

審

院 東京府武藏國麴町區八重洲町貳町目

大審院ヨリ各控訴院へ實測里程表

院名	位置	里程
東京控訴院	東京府武藏國麴町區永樂町壹町目	四餘
大阪控訴院	大阪府攝津國西區土佐堀通四町目	一四三、二六〃
長崎控訴院	長崎縣肥前國長崎區万歳町	三四五、三三〃
函館控訴院	北海道廳渡島國函館區沙見町	二一八、三〇〃
名古屋控訴院	愛知縣尾張國名古屋區本町壹町目	九四、〇六〃
宮城控訴院	宮城縣陸前國仙臺區宇平町	九二、二九〃
廣島控訴院	廣島縣安藝國沼田郡廣島字小町	二二三、〇五〃
大審院ヨリ各始審及支廳へ實測里程表		

附錄

所 廳 名 位

位

置

里

程

東京始審裁判所	東京府武藏國狹間町區八重洲町貳丁目	三餘
橫濱始審裁判所	神奈川縣武藏國橫濱區北仲通五丁目	八、一七〃
同管内八王子支廳	同縣同國南多摩郡八王子驛橫山町	一、一二〃
新瀉始審裁判所	新瀉縣越後國新瀉區寄居町白山外新田	信州 一〇八、三〇〃 若松 一〇〇、一九〃 信州 一〇九、五二〃 若松 九七、〇二〃 信州 九三、〇一〃 若松 九三、〇一〃
同管内新發田支廳	同縣同國北蒲原郡新發田本村字三ノ丸	信州 七五、三〇〃 若松 七三、三〇〃
同管内長岡支廳	同縣同國古志郡長岡町	信州 七四、〇一〃
同管内高田支廳	同縣同國中頸城郡高田町	信州 一六五、〇三〃
同管内相川支廳	同縣佐渡國雜太郡相川廣間町	六、〇四〃
浦和始審裁判所	埼玉縣武藏國北足立郡浦和宿	一七、〇四〃
同管内熊谷支廳	同縣同國大里郡熊谷驛	一〇、一四〃
千葉始審裁判所	千葉縣下總國千葉郡千葉町	一九、三三〃
同管内木更津支廳	同縣上總國望陀郡木更津村	二六、〇二〃
同管内八日市場支廳	同縣下總國匝瑳郡八日市場村	二八、一一〃
宇都宮始審裁判所	栃木縣下野國河内郡宇都宮町	二三、一九〃
同管内栃木支廳	同縣同國都賀郡栃木町	

前橋始審裁判所	群馬縣上野國東群馬郡前橋曲輪町	一八、〇六餘
水戸始審裁判所	茨城縣常陸國東茨城郡水戸上市仲町	二九、三三〃
同管内土浦支廳	同縣同國新治郡土浦町	一八、二二〃
同管内下妻支廳	同縣同國眞壁郡下妻町	四五、〇五〃
甲府始審裁判所	山梨縣甲斐國山梨郡綿町	三五、一九〃
靜岡始審裁判所	靜岡縣駿河國安倍郡靜岡追手町	四六、一四〃
同管内濱松支廳	同縣遠江國敷知郡濱松利町	六六、一八〃
長野始審裁判所	長野縣信濃國上水内郡長野町	五八、三三〃
同管内松本支廳	同縣同國東筑摩郡北深志町	六八、三一〃
同管内上田支廳	同縣同國小縣郡上田町	四八、二七〃
京都始審裁判所	京都府山城國上京區廿五組榭屋桑原町	一三〇、三四〃
同管内宮津支廳	同府丹後國與謝郡宮津本町	一六二、三五〃
大阪始審裁判所	大阪府攝津國北區中ノ島壺町目	一四三、二六〃
奈良始審裁判所	奈良縣大和國添上郡奈良登大路町	一四一、一八〃
神戸始審裁判所	兵庫縣攝津國神戸區橋通貳丁目	一五三、二七〃

附錄

三

同管内洲本支廳
同管内姫路支廳
同管内豐岡支廳
和歌山始審裁判所
同管内田邊支廳
天津始審裁判所
同管内彦根支廳
德島始審裁判所
同管内脇町支廳
岡山始審裁判所
同管内津山支廳
福井始審裁判所
同管内小濱支廳
金澤始審裁判所
同管内七尾支廳

同縣淡路國津名郡馬場町
同縣播磨國飾東郡直養
同縣但馬國城崎郡木町
和歌山縣紀伊國和歌山區西汀町
同縣同國西牟婁郡田邊上屋敷町
滋賀縣近江國滋賀郡天津上平藏町
同縣同國大上郡彦根金龜町
德島縣阿波國名東郡德島町
同縣同國美馬郡脇町
岡山縣備前國岡山區岡山弓ノ町
同縣美作國西北條郡椿高下
福井縣越前國足羽郡福井佐佳枝上町
同縣若狹國遠敷郡竹原村
石川縣加賀國金澤區上胡桃町
同縣能登國鹿島郡七尾町所口村

一六九、三七餘
一六八、二二〇
一七一、〇二〇
一六一、〇六〇
一八三、三五〇
一二七、三四〇
一一五、三五〇
一八二、三三〇
一九六、〇六〇
一八九、二四〇
一九〇、〇四〇
一四〇、三四〇
一六八、三一〇
中仙道 一七三、二二〇
東海道 一六三、二四〇
名古屋 一二七、〇九〇
東海道 一八一、二一〇

四

富山始審裁判所
高知始審裁判所
同管内中村支廳
松山始審裁判所
同管内宇和島支廳
同管内高松支廳
長崎始審裁判所
同管内平戶支廳
同管内福江支廳
同管内嚴原支廳
佐賀始審裁判所
福岡始審裁判所
同管内久留米支廳
同管内小倉支廳
熊本始審裁判所

富山縣越中國上新川郡富山總曲輪
高知縣土佐國土佐郡帶屋町
同縣同國幡多郡中村
愛媛縣伊豫國溫泉郡壹番町
同縣同國北宇和郡廣小路
同縣讚岐國香川郡内町
長崎縣肥前國長崎區万歳町
同縣同國北松浦郡平戸村字龜岡
同縣同國南松浦郡福江村
同縣對馬國下縣郡今屋敷町
佐賀縣肥前國佐賀郡赤松町
福岡縣筑前國福岡區天神町
同縣筑後國御井郡篠山町
同縣豐前國企救郡京町貳町目
熊本縣肥後國熊本區京町壹町目

一一、〇〇餘
二三九、二七〇
二七〇、二〇〇
二四八、三三〇
二七五、〇八〇
一一五、一五〇
三四五、三三〇
四〇五、三三〇
四〇〇、三三〇
四五〇、三三〇
三一五、三二〇
三一、二九〇
三一六、二八〇
二九三、一四〇
三三二、二八〇

附錄

五

同管内天草支廳
大分始審裁判所
同管内中津支廳
鹿兒島始審裁判所
同管内大島支廳
宮崎始審裁判所
函館始審裁判所
弘前始審裁判所
同管内八戸支廳
札幌始審裁判所
根室始審裁判所
名古屋始審裁判所
同管内岡崎支廳
岐阜始審裁判所
同管内高山支廳

同縣同國天草郡町山口村字筆無
大分縣豐後國大分郡大分町
同縣豐前國下毛郡中津町
鹿兒島縣薩摩國鹿兒島郡山下町
同縣大隅國大島郡金久村
宮崎縣日向國宮崎郡上別府村
北海道廳渡島國函館區沙見町
青森縣陸奥國中津輕郡弘前字下白銀町
同縣同國三戸郡八戸町字番町
北海道廳石狩國札幌區南壹條西三町目
北海道廳根室國根室郡光和田町
愛知縣尾張國名古屋區東外堀町廣町目
同縣三河國額田郡岡崎康生町
岐阜縣美濃國厚見郡泉村
同縣飛騨國大野郡高山町

三五二、二三餘
三三〇、三六〃
三〇一、二六〃
三八八、二六〃
四三三、二六〃
三七〇、〇七〃
二一八、三〇〃
二二〇、〇五〃
二四九、二三〃
二七六、〇〇〃
三九二、一二〃
九四、〇六〃
八四、〇七〃
一〇三、二六〃
一三七、一二〃

六

安濃津始審裁判所
同管内山田支廳
仙臺始審裁判所
同管内石卷支廳
福島始審裁判所
同管内白河支廳
同管内平支廳
同管内若松支廳
山形始審裁判所
同管内米澤支廳
同管内酒田支廳
盛岡始審裁判所
同管内磐井支廳
秋田始審裁判所
同管内大曲支廳

三重縣伊勢國安濃郡岩田村字岩田町
同縣同國度會郡山田岡本町字上ノ切
宮城縣陸前國宮城郡仙臺東壺貳番町
同縣同國牡鹿郡石卷村字本町
福島縣岩代國信夫郡腰濱村字新町
同縣磐城國西白河郡白河町
同縣同國磐前郡平町
同縣岩代國北會津郡若榮町
山形縣羽前國南村山郡山形十日町
同縣同國南置賜郡米澤門東町
同縣羽後國飽海郡酒田上壺町
岩手縣陸中國南岩手郡仁王村字内丸
同縣同國西磐井郡一關村字釣山
秋田縣羽後國南秋田郡東根小屋町
同縣同國仙北郡大曲村

一一二、一一〃
一二一、三一〃
九二、二九〃
一〇五、三五〃
七〇、三〇〃
四九、二六〃
五二、三三〃
六七、二〇〃
九四、三四〃
一三五、〇一〃
八二、二七〃
一四〇、一九〃
一一六、〇〇〃
一五〇、〇二〃
一六四、一一〃

附錄

七

廣島始審裁判所	廣島縣安藝國廣島區三川町	三三三、〇五餘
同管内尾道支廳	同縣備後國御調郡尾道久保町	三一一、二五〃
山口始審裁判所	山口縣周防國吉敷郡町方	二六九、一六〃
同管内赤間關支廳	同縣長門國赤間關區東南部町	二八八、〇七〃
松江始審裁判所	島根縣出雲國意宇郡雜賀町	二二三、三三〃
同管内濱田支廳	同縣石見國那賀郡原井村	二六〇、〇〇〃
同管内西郷支廳	同縣隱岐國周吉郡西郷湊町	二七八、三五〃
鳥取始審裁判所	鳥取縣因幡國邑美郡東町	一九八、〇〇〃
同管内米子支廳	同縣伯耆國會見郡西宮町	二三四、〇〇〃

版權登錄

公庭訴訟提要大尾

明治二十一年七月廿六日出版
 明治二十一年七月廿六日印刷

定價金四拾錢

著作者 下司盛吾

東京府京橋區南紺屋町四番地

發行者 神戶甲子二郎

東京府京橋區南紺屋町七番地

印刷者 川田幹一

東京府麹町區有樂町三丁目壹番地

發行所 顏玉堂書舖

東京府京橋區南紺屋町七番地

發賣所 忠愛社書舖

東京府京橋區八官町十九番地

東京府會議員 代 言 士 角田眞平先生校閱 山田正賢先生著述

○市制町村制註釋 完

(五部以上五分引)
(十部以上一割引)

附市制町村制理由 ○紙數四百廿ページ餘 ○正價六十錢遞送費全國一般弊店自辨

○五月十五日ヨリ申込ト送金ノ順序ニ依リ送本ス ○洋製美本

右ハ今般法律第一號ヲ以テ公布セラレタル市制町村制ニ詳細ナシ註釋ヲ施シタル書ニ

シテ一 直接ニ事務ヲ取ラル、士ハ勿論苟モ地方自治ノ制ヲ希望セ

參政權 ナラザルニ離乎果タ易チ知悉ノ國會ノ準備且ツ民法發布ノ秋ノ裨益尠小

得置ク可キ規則ハ此書ノ右ニ出ル者アラザル近世無比ノ寶典ナリ弊草幸ニ刑法析義ノ

著者山田正賢先生ニ請ヒ詳細ナル釋義ヲ得加フルニ東京府會議員ニ其人アリト知ラレタ

ル代言士角田眞平先生ノ校閱ヲ經タルモノナリ以テ本書註解ノ尋常一様ノ者ニアラザ

ルベシ 苟モ日本帝國人民タルニ恥ザラントスルノ諸

君ハ御同僚御配下御吹聴ノ上陸

繪御購求ヲランコト伏テ乞フ

發行所

東京京橋區南紺屋町七番地

神戸甲子二郎

大審院刑事第一局長從四位勳四等評定官西岡逾明公題字
代 言 士 角 田 眞 平 先 生 序 文 ○ 山 田 正 賢 先 生 著 述

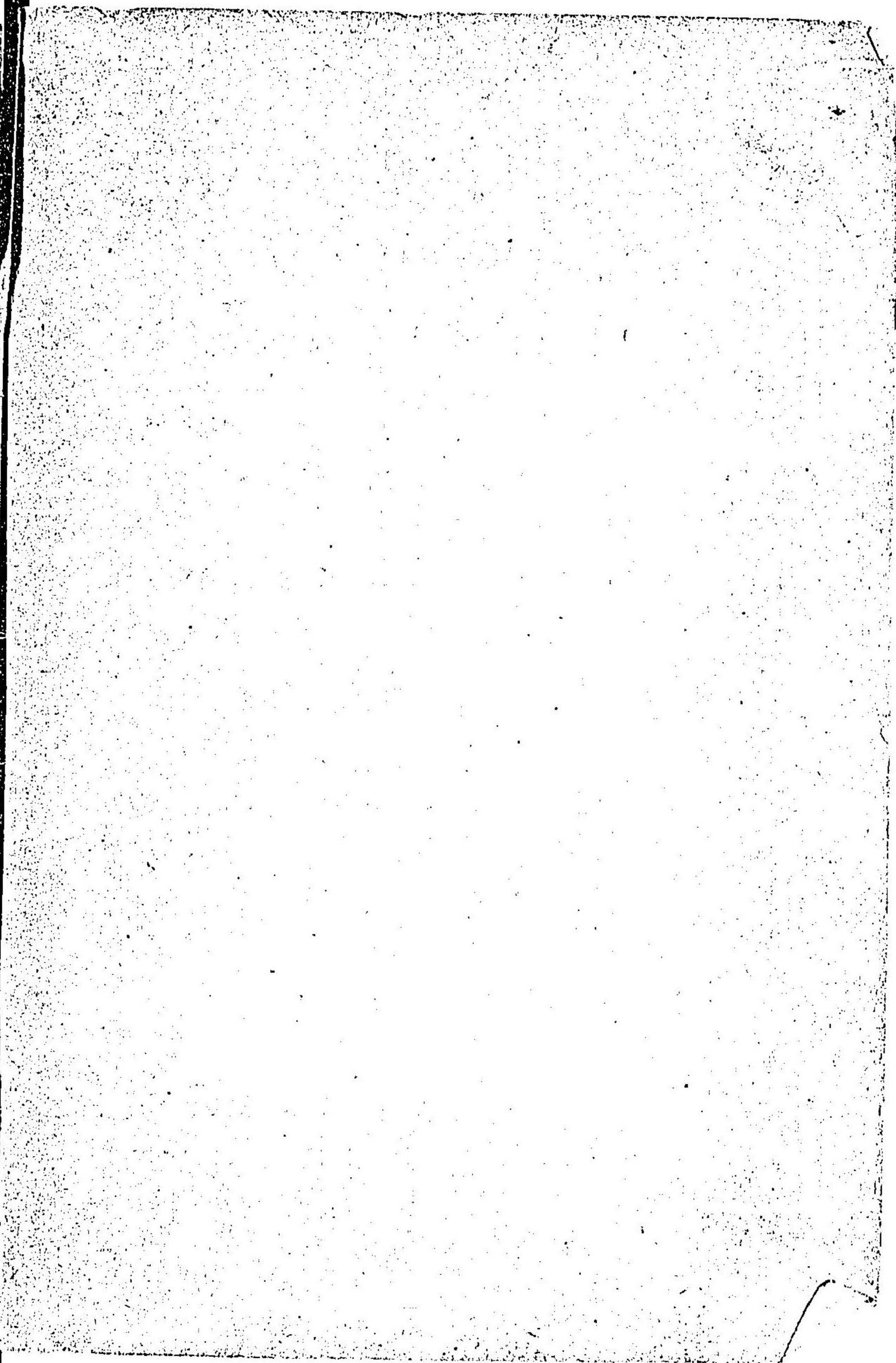
○ 刑 法 析 義 全 四 卷 定 價 金 四 圓 七 拾 五 錢

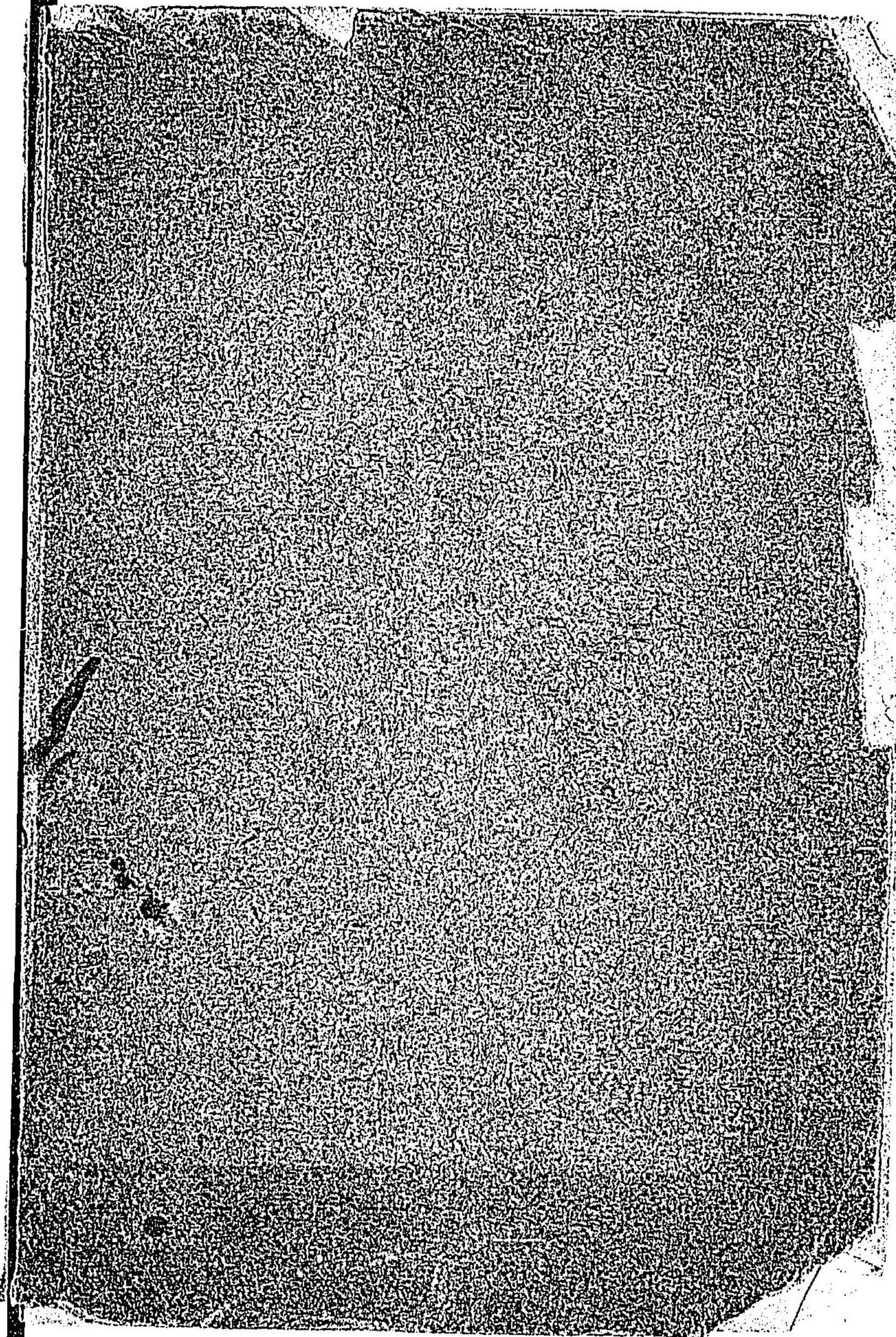
○ 第壹之卷製本落成ス○定價金壹圓○遞送費全國一般弊店自辨本書紙數四百七十一ペ
ーシ製本ハ黒「クロス」綴背革金文字入最上等ノ美製本○送金順次ニ依リ送本ス○貳
之卷以下近刻
人ノ刑法ヲ釋クヤ久シ隱微ヲ探リ玄ヲ鈞メ殆ント到ラザル處ナシ然リト雖事物悠久チ
經過スルニ於テ之ガ停滯腐敗ヲ免カル、能ハサルハ自然ノ條理ナレバ我邦刑法社會ニ
在ツテモ亦此弊ナキヲ保セス此際ニ當ツテ宜シク風浪ノ以テ聳動セシムルモノナカル
ヘカラス先生此ノ著書ハ蓋シ日本刑法社會ノ狂波怒濤ト謂フベキナリ且ツ夫レ法理實
用ニ鉢ヲ全フシ宮城堀田、井上、江木諸氏ノ說ヲ批難評論シ盡シテ餘サザルモノナリ苟
モ刑法ヲ學ビ之レヲ活用スルモノ欠クベカラザル良書ナリ故ニ大方ノ諸彦陸續購讀ア
ランコト伏シテ乞

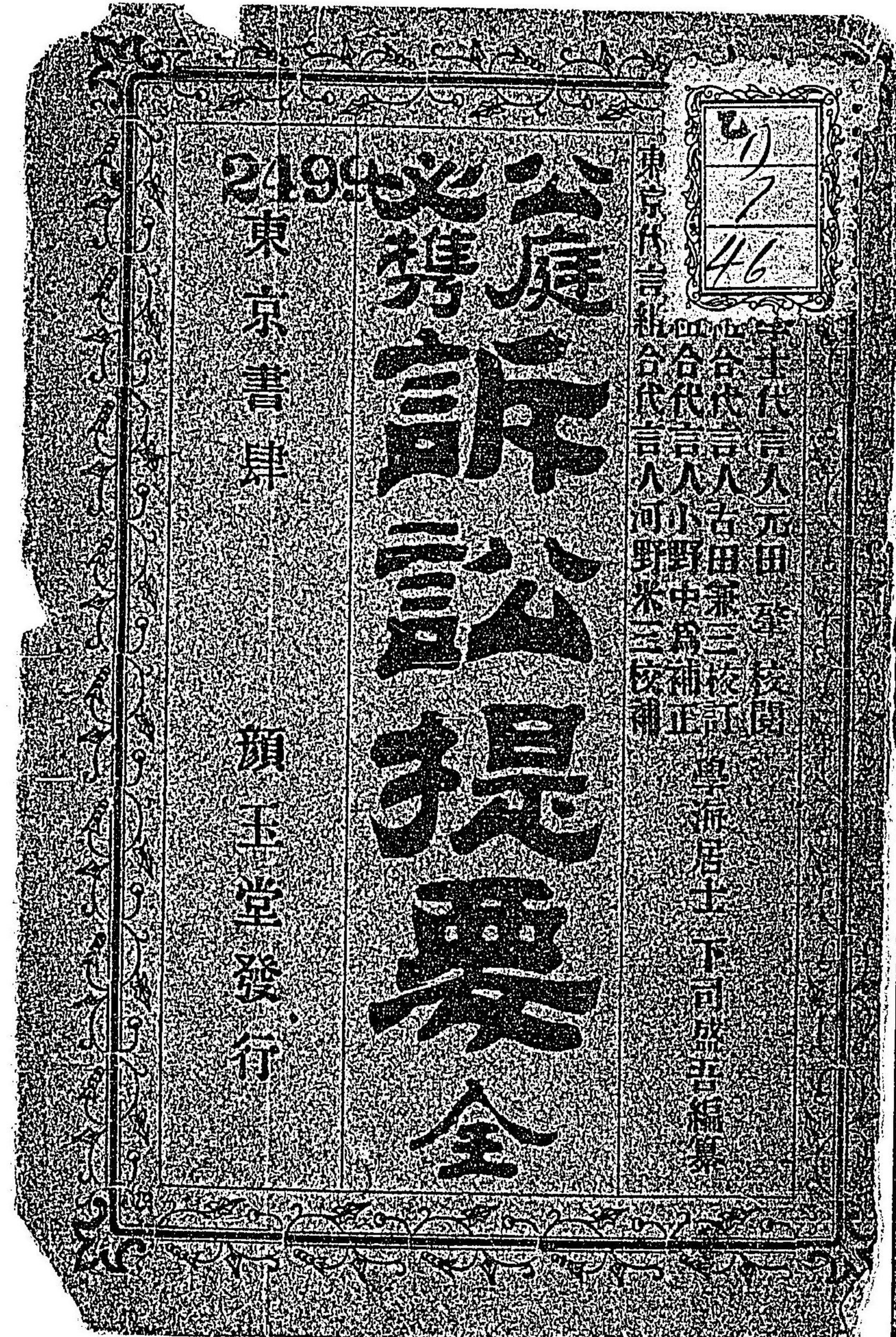
東京京橋區南紺屋町七番地

發行書肆

神戶甲子二郎







2499

東京書籍

顏玉堂發行

公庭必携 訴訟提要

46

東京法律書院編輯
元田 稔 古田 兼三 小野 中為 河野 米三
代 言 人 代 言 人 代 言 人 代 言 人
校 閱 校 正 校 正 校 正
下司 盛吾 編

036812-000-2

特61-538

訴訟提要 (公庭必携)

下司 盛吾 / 編

M21

BBS-0256

